




Positivity scale for type-2 diabetes patients with renal failule

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Matsui, Kiyoko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/31459

博士論文審査結果報告書

報告番号	医博甲第2248号
学籍番号	0627022024
氏名	松井 希代子

論文審査員

主査(教授)	須釜 淳子	
副査(教授)	稲垣 美智子	
副査(教授)	田淵 紀子	

論文題名 Positivity scale for type-2 diabetes patients with renal failure

論文審査結果

【論文内容の要旨】

糖尿病性腎不全は合併症の一つであり、無症状に進行し症状出現後は不可逆的に進行し透析に移行する。したがって患者にとっては、病態にとどまらず、生活にも侵襲的であるため多くの文献では、患者は闘病や生活に悲観的で否定的な心理状態であると報告されている。しかし、審査申請者は先行研究（修士論文）において、質的手法を用い肯定的にみえる「遅ればせながら頑張ったと納得する」療養認識をする患者がいることを明らかにした。それは5種類見いだされた療養認識のうちの一つだけであった。本研究の目的は、この「遅ればせながらできるだけ頑張ったと納得する」療養認識の構成概念および肯定感であることを確認し尺度を作成することである。また腎症患者であることを、患者が認識する期間の長さにも影響することも確認した。

対象は、2型糖尿病性腎不全70名に面接式質問用紙法で調査した。その結果、帰納的に導き出され3つの項目と同じ項目が因子分析により確認され、3項目の内的一貫性（ α 係数0.70）が確認された。また併存妥当性は自己効力感尺度との相関（ $r=0.322$ ）が確認され尺度として成立した。またQOL（KDQOL-SF1.3尺度による測定）において、社会生活、心の健康、全体的健康観、腎疾患による負担の少なさ、睡眠において有意に正の相関があり、この尺度は肯定感を測定可能な尺度として位置づけられた。また腎症患者であることを認識する期間の長さにも正の相関がみられ早期の腎症発見と患者への説明の重要性が示された。

【審査結果の要旨】

本研究により示された2型糖尿病の肯定感尺度は、これまで、否定的なとらえ方のみで考えられてきた糖尿病性腎症患者の心理の新たな発見として価値が高い。この結果は糖尿病医療全体に対しても貢献する結果である。糖尿病の合併症初期教育、腎症初期患者への教育およびチーム医療におけるケアの新たな展開を可能にする。今後の2型糖尿病医療における新たなケアの方法の開発に大きな影響を与える点において高く評価される。また公開審査における質疑への応答も的確であった。よって博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。